御坊町（ごぼうちょう）

信光寺の門前町を形成

町名の由来は、今も当地に建つ浄土真宗本願寺派・信光寺の創建にかかわります。また、江戸時代に畝傍村の分村だった当地が独立「御坊村」となったのは、寛永一六（一六三九）年―元禄一三（一七〇〇）年の間と見られます。

一帯の領主だった旗本・神保長三郎が浄土真宗・本願寺の准如上人に帰依し、この地に寺を建て寄進したのが慶長一七（一六一二）年。元和九（一六二三）年に住職・性覚が就任して光福寺と号し、さらに延宝六（一六七八）年に本尊・阿弥陀如来立像を本山が下付して信光寺と改号され今日に至っています。

創建から畝傍御坊と称した同寺は、専立寺（大和高田市）・浄照寺（田原本町）・称念寺（橿原市）・円照寺（御所市）とともに〝大和五カ所御坊〟と呼ばれ、本山に準ずる寺として栄えました。従いまして当初、信光寺門前町として御坊村が形成されたのでしょう。

明治一六年に御坊・久米・木殿・大久保・四分・畝傍・出屋敷の六村を校区とする御坊小学校が開校（小学校沿革史）し同二二年に白橿村の大字となります。昭和三年に畝傍町の大字に転じたあと戦前・戦後を過ごし、同三一年一〇月の橿原市発足に当たり「御坊町」になっています。